

「今」こそ見るべき

海外ドラマ

池田敏

かつて二流とよばれた

海外ドラマ

産業の

快進撃!!

その歴史と動画配信サービスの仕組みから紐解く

ヒットの秘密



「今」こそ見るべき海外ドラマ

池田敏

星海社

89



SEIKAISHA  
SHINSHO



海外ドラマを見始めて37年以上になります。海外ドラマに夢中になったのは1979年の春、家にソニーのベータマックスのビデオデッキが置かれてからです。当時読んでいた映画雑誌の影響もあり、TVで深夜に放送される海外ドラマや映画を、ビデオデッキで録画予約するという遊びを覚えました。まだビデオテープが高価だったので、再生してはすぐにまた別の番組を重ね録りする、その繰り返しでした。

当時、海外ドラマを見るのはとても大変でした。ほとんどの海外ドラマは、学校に行っているあいだの昼間か、深夜にしか放送されていなかったからです。また、映画雑誌で「アメリカではこんなすごいドラマが放送されている!」という記事を読んでも、実際に日本上陸するまでには何年もかかり、結局は上陸しなかったタイトルのほうが多かったかもしれません。

好きが高じて大学在学中から雑誌で海外ドラマや映画の記事を書くフリーライターにな

り、そのまま現在までずっと海外ドラマを追い続けています。だからこそ、自信を持って言えます。

海外ドラマはまちがいない、今が一番面白い。

だから、今こそ海外ドラマを見るべきである、と。

この本を読んでいる人も、これまで何かしら海外ドラマを見た経験はあるでしょう。

ですが、はまっているファンではない人の中には、海外ドラマに対して次のような印象を持っている人もいるのではないのでしょうか。

- ・ 話数が多そう、見るのに時間がかかる
- ・ シーズンの終わりで物語が完結せず、カタルシスがない
- ・ 知らない俳優ばかり出演している
- ・ 作品がたくさんあり過ぎて、どれから見たらいいのか分からない

こう感じるのによく理解できます。そう誤解されている部分を解きほぐすことで、より

多くのみなさんにもっと気軽に海外ドラマを楽しんでいただこうというのがこの本です。

2010年代に入ってから、海外ドラマを取り巻く環境は、まさに激変しています。

中でも、インターネットの「動画配信サービス」は注目の的です。特筆すべきポイントは、デバイスさえあればどこでも手軽に見られることに加え、最新作について世界中のドラマ愛好者たちとリアルタイムで熱狂できることにあります。

ドラマという娯楽にとって最高の時代がようやく訪れたのです。だからこそ私はこの本で、映画を見たり、小説やコミックを読むのと変わらない感覚で、海外ドラマは気楽に楽しめるものだとお伝えしたい。最先端の海外ドラマは、日常にはない刺激を味わえ、見た人の人生を豊かにする最高のエンターテインメントであり、愛すべき「時間泥棒」なのだ、と。

### 面白い海外ドラマはすぐに見つかる

世界的にも近年は、映像エンターテインメントとしてのドラマというフォーマットは、従来の定説を覆しながら、大きく注目を集めています。

かつてアメリカでは、TVドラマは映画より製作費が少なく、収録にかけられる日数も

少ないため、そこで働く人材は二流以下とされてきました。ですが、現在のドラマ界は、ハリウッドだけでなく世界中のクリエイターたちがしのぎを削る戦場となっています。

たとえば、2015年末に全世界で公開されて記録的に大ヒットした映画『スター・ウォーズ／フォースの覚醒』を監督したJ・J・エイブラムス。彼は『エイリアス』(01~06)、『LOST』(04~10)などのヒットドラマのクリエイターとして注目を集め、その才能をトム・クルーズに認められ、『M:i:III』(06)で映画監督デビュー。それからエイブラムスはTV界と映画界の両方で活躍を続け、映画王国ハリウッドの頂点に立つてみせました。

ほかに、マーベル・コミックス原作の大ヒット映画『アベンジャーズ』(12)を監督したジョス・ウェドンなど、かつてドラマ界で活躍した逸材が、次々と製作費2億ドル(208億円)を超える超大作映画の監督に抜擢されています。J・J・エイブラムスの跡を継いで『スター・ウォーズ』第8作(2017年末完成予定)を監督するライアン・ジョンソンもまた、全米で絶賛されたドラマ『ブレイキング・バッド』(08~13)で数話を監督していました。そんな未来のハリウッドを牽引する若き才能たちによって、アメリカでは日々、最先端のドラマが生み出されています。

話を「動画配信サービス」に戻すと、過去の名作や少し前にヒットしたドラマを浴びる

ように見られるようになったことも大きな利点です。海外ドラマ好きには夢のような時代がやって来たのに、私でさえすべての新作を追うのが難しいほどです。

ですからこの本では、海外ドラマ初心者であっても自分に合った新作をなるべく早く見つけられるよう、「海外ドラマ・マッチング表」も掲載しました。

海外ドラマを見たことがない人はもちろん、海外ドラマファンも楽しめるような心がけました。これまでの海外ドラマを紹介する書籍・ムックでは拾いきれなかった、海外ドラマが定着するに至る歴史的背景についても掘り下げました。

歴史やキーワードの紹介をちりばめながら、具体的な作品や意外なトリビアもたくさん取り上げましたので、自分が気に入るような海外ドラマを一本でも多く見つけるためのコツ、そのヒントをこれから一緒に探っていきましょう。

**もう扉は開かれています。ようこそ、海外ドラマの世界へ。**

目次

はじめに 3

面白い海外ドラマはすぐに見つかる 5

第1章 史上最も海外ドラマが面白いのは現在だ！ 15

今、ネット発のオリジナル・ドラマが熱い 16

やって来た「動画配信サービス」の時代 18

ハリウッドで生まれた「格差」 21

ドラマなのに中規模クラスの映画に匹敵する製作費を使えるようになった事情 24

エロ・グロ・不謹慎！ 何でもありのTVドラマ 27

ハリウッド・スターもTV界へ 29

第2章

今見るべき価値が最も高いドラマとは

51

なぜ映画人たちがこぞってドラマに手を出すのか

31

「動画配信サービス」の時代が本格的に到来

33

海外ドラマの偏見を解く

46

アメリカ人の現在のドラマの楽しみ方

48

海外ドラマには、常に最高傑作がある

52

アメリカ以外の海外ドラマの紹介

70

とにかく第1話を見まろう

76

途中で見るのをやめてもいいのか

78

黎明期のTVドラマは演劇の生中継だった 80

ドラマをフィルムで収録したことの意味 82

ドラマの興隆の追い風になった意外な事件 85

TVの「カラー化」を経て多様化したアメリカのドラマ 87

新たなスタイル、ミニシリーズ 95

日本で見落とされがちなシンジケーションの重要度 96

全米TV界を揺るがした「第4のネットワーク」の出現 98

TV史上最大の革命、それはケーブルTVの出現 100

プレミアム系チャンネル「HBO」出現の衝撃 102

ビンジ・ウォッチングIIイッキ見の楽しみ方 103

静かな変化だったが、意義があった高画質化 105

急激に巨額の資金が世界中から米国のドラマ業界に流入 106

本当に地上波の時代は終わったのか 107

「時間泥棒」たちと豊かに付き合う関係

109

第4章

日本における海外ドラマの歴史

111

日本のゴールデンタイムで海外ドラマが当たり前のように放送された時代

最重要視されたのは「家族そろって見て楽しめるドラマ」だった

114

日本のTV界の成長を受けて「氷河期」に突入した海外ドラマ

118

それでも少数精鋭の海外ドラマが上陸に成功

119

1990年代、2つの新しいメディアが状況を変えた

121

本格的なTVの「多チャンネル時代」が到来

123

決定打になった『24—TWENTY FOUR—』の大ヒット

131

レンタルDVDの業界が海外ドラマに注目

132

「海外ドラマ四天王」の出現でブームは白熱

134

今だから明かせる「海外ドラマ四天王」の功罪

143

海外ドラマ氷河期からの復活 146

第5章 面白い海外ドラマの見つけ方・楽しみ方 149

「キーワード」さえ知っておけば大丈夫 150

第6章 架空のドラマ作りを通じて理解するアメリカTV業界用語集

ハリウッドの敏腕TVプロデューサー、動く！ 190

さあ、撮影開始だ！ 201

オンエアが始まった！ところが……!? 206

できれば取りたいTV賞 209

ドラマが大ヒット！ まだまだ儲けるぞ！ 212

TVスターの裏話 219

第7章 **これからの海外ドラマ** 227

アメリカTV界の現状について 228

2016年春にキャンセルされたタイトル 229

最新のネット配信ドラマ事情 230

映画とドラマの関係の未来像 232

日本のTVドラマに対して少しだけ提言を 234

日米のエンターテインメントに関する考え方のちがい 236

海外ドラマの可能性は無限 237

おわりに 240

---

歴史年表 参考文献

244 243

---

---

---

---

---

---

第1章

史上最も海外ドラマが面白いのは現在だ！

## 今、ネット発のオリジナル・ドラマが熱い

TVの歴史が始まった1940年代は、映画の黄金時代と重なった。だからか、映画とTVの間には自然と垣根が生まれ、映画業界の一線から新進の零細産業であるTVに移る人材は少なかった。

昔、映画スターが自分の名前を冠した番組（コメディが多かった）に出演しても、映画人がTVに出演することは映画界での成功をあきらめてTV界に降りてきたイメージだ。スタッフについても、B級娯楽映画の職人監督がTVのアクション・ドラマに活躍の場を求めた位で、TVは映画人が本気を出す場ではなかった。一部例外として、アルフレッド・ヒッチコック監督の『ヒッチコック劇場』（55〜65）、デヴィッド・リンチ監督の『ツイン・ピークス』（90〜91）があつたが、ヒッチコックやリンチがみずから監督したエピソードはわずかで、全力を注いだとは言いがたかった。

しかし、21世紀に入ってドラマ業界では、映画人のドラマ進出が注目を集めている。

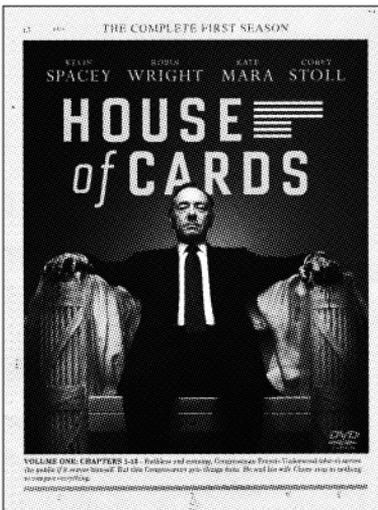
筆頭は『セブン』（95）、『ソーシャル・ネットワーク』（10）などで知られる映画界のヒットメーカー、デヴィッド・フィンチャー監督だ。彼は『セブン』でも組んだ、アカデミー賞に二度輝く実力派男優ケヴィン・スペイシーを主演に迎え、彼と『ハウス・オブ・カード

野望の階段』(13)を製作総指揮し、第1・2話をみずから監督。共演女優のロビン・ライトや映画スターのジョディ・フォスターが監督をすることもある豪華さ。架空のアメリカ大統領を描く政界ドラマだが本物のバラク・オバマ大統領までがファンであると公言し、社会現象を生んでいる。

このドラマが重要なもうひとつの理由は、「動画配信サービス」(後述する)のネットフリックス(Netflix)で世界初公開されたことにある。このドラマはネット配信のオリジナルドラマとして史上初めて、「TV界のアカデミー賞」とされるエミー賞とゴールデン・グローブ賞をW受賞することに成功した。

現在のアメリカのドラマ業界にはフィンチャー以外にも、映画界で実力を認められた一流の才能が集まりつつある。

『トライフック』(00)で第73回アカデミー賞の監督賞を受賞したステイヴン・ソダーバーグに至っては、「もう映画は撮らず、ドラマしか作らない」と宣言し、『The Knick (原題)』(14、15、日本ではHuluが配信予定)の全20話を監督した。主演はやはり映画界で活躍してきた人気俳優、クライ



『ハウス・オブ・カード 野望の階段』

ヴ・オーウェン。さらにソダーバーグは、自分が監督した映画『ガールフレンド・エクスペリエンス』(09)のドラマ版(16)も製作総指揮している。

アメリカではどの動画配信サービスも、さらなる会員獲得のための目玉商品にすべく、他の動画配信サービスでは見られないオリジナル作品作りに躍起になっている。

映画界で名匠とされるウディ・アレン監督も人生初のドラマ製作に挑んでいる(各話30分を予定)。アメリカのAmazonプライム・ビデオで2016年中に配信される予定だ。アレンの初ドラマ(無名時代に何度か脚本を書いたが)の企画に対し、TVの各チャンネルやネットフリックス、Amazonが手を挙げて争奪戦が展開したが、アレンはAmazon系列の製作会社の代表ロイ・プライスを信じたといい、Amazonは自社の『トランスペアアレント』(14)がゴールデン・グローブ賞を受賞した直後にアレンのプロジェクトを発表し、映像業界をあつと言わせた。

## やって来た「動画配信サービス」の時代

「動画配信サービス」(subscription video on demandを略してSVODともいう)とは、従来の電波を使うTV放送と異なり、インターネットで動画を有料配信するサービスで、アメリカでは201

0年代に入ってから、ネットフリックス、Hulu、Amazonプライム・ビデオを中心に台頭している。

そもそもインターネットの出現以来、TV放送やビデオ・DVD以外でも、数多くの動画がネットで楽しめるようになったのはご存じの通りだ。

デバイスも、PCやスマートフォン（スマホ）、タブレットの普及の影響で、お茶の間という言葉は死語になりつつある。特に若い世代は自室や自宅の外で、PC、スマホ、タブレットを使って自分が見たい動画を楽しんでいる。

従来のTV、中でも液晶TVでインターネットを見られるケースも増えている。また、Amazonの「Fire TV Stick」を液晶TVのHDMI端子に差し込み、動画配信サービスを見ている人も多いだろう（ちなみに筆者もそうだ）。

動画配信サービスの利点は、ユーザーを時間や場所などの制約から解放し、ドラマをぐっと気楽に楽しめるようにしたことだ。レコーダーでTV放送をエアチェックするのもいいが、スマホやタブレットを使って、いつでもどこでもドラマを楽しめるようになった。日本においてはまだまだ充実させられる余地があるとはいえ、新旧の多彩なドラマが動画配信サービスで見られる。

また、TV放送には無い動画配信サービスのメリットとして、CMが無いので地上波TVのようにCMスポンサーの意向を気にしなくていいことがある。そのため、従来なら過激とされた作風や表現も可能になった（子供に見せたくない作品をどう見せないようにするかは各家庭の工夫次第だが）。これまでに無かった斬新なドラマの出現は、作品の送り手と受け手の両方を惹きつけるポイントにもなっている。

中でも世界進出が進んでいる動画配信サービスは、アメリカのネットフリックスである。2016年4月の時点で、本国では4600万契約を達成し、2016年1月からは中国など一部を除くほぼ全世界でサービスを展開。同年4月の時点で、全世界合計で8100万契約に到達している。

総売り上げに驚かされる。日本におけるスタンダードプラン（消費税抜きで950円）を基準に考えると950円×8100万契約×12カ月で、通年で9234億円になると推測される。

この数字は、日本のNHKが日本全国の世帯から集めている受信料を含んだ近年の事業収入、約7500億円の約1・2倍にあたる。世界のどこかでNHKと肩を並べる巨大な映像産業が、たった十年弱で生まれたようなものである。

## ハリウッドで生まれた「格差」

放送業界や映像ソフト業界に続き、動画配信サービス業界でドラマ人気が高まっていることの遠因には、アメリカの映画業界における構造的変化もある。

21世紀に入ってハリウッドでは、成功する作品とそうではない作品の収益の差が広がっている。ベストセラーを映画化した『ハリー・ポッター』シリーズ(01〜11)、人気ファンタジー小説『指輪物語』を映画化した『ロード・オブ・ザ・リング』三部作(後に前日談の『ホビットの冒険』を映画化した『ホビット』三部作も生まれた)、マーベル・コミックスの人気ヒーローを映画にした『スパイダーマン』三部作(02〜07)、日本生まれの人気玩具を映画にした『トランスフォーマー』シリーズ(07〜11)など、原作も有名な大スケールのシリーズものの映画のほうが手堅く稼げると考えられ、しかもこうしたタイプの作品は玩具化などの二次使用でも大金を生み出すことが可能だと考えられている。

以前からハリウッドでは、シリーズものの映画が優遇されてきたとはいえ、一作目の段階でシリーズ化が決まっただけで、続編やスピンオフ映画の公開日が数年先まで計画されるという、昔に比べると極端と呼んでいいほどの商業化が進んだのだ。娯楽性が高くて大き

く稼げる映画の厚遇と、芸術性を重視した映画の冷遇という二層構造は、「格差」と呼んでもかまわないだろう。

ほかに、急激な経済成長が続く中国の映画市場の影響も大きい。中根研一氏の『映画は中国を目指す』（洋泉社）によれば、1997年に『ロスト・ワールド／ジュラシック・パーク』が中国の年間興行成績の記録を塗り替え、翌年に公開された『タイタニック』（97）が社会現象を起こすほどの記録的ヒットをマークした頃から、ハリウッド映画は中国でコンスタントに大ヒットするようになったという。中国の外国映画の年間輸入枠も増え、ハリウッドは中国を大切な輸出先にし始める。中国で歓迎される外国映画は先に挙げたような、アクションを満載した、SFやファンタジーといった娯楽大作だ。

また、映画界では3D映画も流行するようになった。世界の国々の中には映画を海賊版のDVDやビデオCD（VCD）、また、インターネット上の違法映像など、けっして歓迎されない方法で楽しむ人々がいるのは残念だが、映画館で見ないと魅力を味わえない3D映画の流行が、多くの観客に映画館へ足を運ばせたのも事実だ。

するとどうなるか。ハリウッドで作られる映画は、中国でのヒットも望める、3D映えする娯楽大作と、国内外におけるミニシアターでの需要を見込んだ、小ぶりの映画に二分

していつてしまう。

中クラスの映画も少しは残っているが、監督や主演スターの知名度が高い作品か、中国以外の映画市場だけでも製作費の回収が望めそうなヒット作の続編やリブート映画など、やはりロー・リスクと言わざるをえない企画ばかりだ。

ハリウッドの中国に対する戦略の影響は、日本の映像ソフト業界にも影響を与えている。日本で当たりそうにない洋画のDVDを売るよりも、全米放送で人気を博した（または博しそうな）最新ドラマを売ろうと考えられるようになったのだ。海外ドラマはソフトだと1シーズンあたり6〜12巻になるケースが多い。つまり1本の海外ドラマを当てることは、洋画のソフトを6〜12本売ると同じ価値がある。その海外ドラマが何シーズンもヒットすれば、さらに収益は大きくなる。

かつては巻数の多さゆえに商品棚を占領してしまつたため、レンタル店でやっかいものとされていた海外ドラマだが、当たれば映画以上に安定した収益を生み出すという、大きな期待をかけられるようになったのだ。

## ドラマなのに中規模クラスの映画に匹敵する製作費を使うようになった事情

このように映画に匹敵する役割を期待されるようになったドラマだが、アメリカのドラマが大規模化するようになったのは、「動画配信サービス」台頭の前、多チャンネル先進国アメリカにおけるケーブルTVの進化を助走とした。

筆者は2015年秋、アメリカで活躍する日本人俳優マシ・オカ氏にインタビューしたが、「現在のアメリカのドラマは一話あたり500万ドルから700万ドルの製作費を使っていると聞いている」と明かしてくれた。

彼が出演しているドラマは大作が多いので、この数字はやや高いのではないかと耳を疑ったが、アメリカのエンターテインメント業界誌「ヴァラエティ」の2013年の記事に「ネットフリックスは最低でも一話あたり380万ドル」とあるのを見つけ、マシ・オカ氏が語った数字はありうると考え直した。

ちなみに2000年代には世界的ヒット作『CSI…科学捜査班』が一話あたり250万ドルで、地上波で最も製作費が高いドラマとされていた。先述した数字が正しいとしたら、単純に約十年間で倍増したことになる。

仮に、アメリカのケーブルTVのベーシック系チャンネルで、映画界のヒットメーカー

を製作総指揮に迎え、映画スターが主演する、同チャンネルにとって目玉になる全10話の大作ドラマを製作するでしょう。

放送権、動画配信権、ソフト化権が世界中に売れると見込んで、一話あたりの製作費は500万ドル（2016年夏の為替レートで約5.25億円）としよう。するとシーズン1全10話の合計製作費は5000万ドル（約52.5億円）となる。

主演スターは、映画界では準主演クラスだが世界的に知名度が高い俳優Aとする。Aが大作映画1本で受け取る出演料が200万ドルだったとしたら、彼はそのドラマで1話あたり20万ドルの出演料で出演することを、恐らくは快諾する。

なぜか。Aが6カ月をかけて作る映画1本に出演したとする。実際に撮影に参加するのべ日数は数十日間かもしれないが、彼は6カ月間、他の作品には参加できない可能性が高い。

ならば6カ月間、すべての平日に拘束されたとしても（ちなみにアメリカの映像業界では原則的に土日の撮影や収録はない）、合計の出演料は20万ドル×10話＝200万ドルになるので、6カ月間で200万ドルを稼ぐことに変わりはない。さらに、そのドラマが世界中にセールスされたら、作家の印税のように「二次使用料」を受け取れる。

アメリカの映像業界で働くプロの俳優たちが所属する組合、SAG-AFTRAは、ある作品で貢献度が高かった組合員が二次使用料を受け取れるよう、ルールを設けている。さらにAがプロデューサーの一人としてもクレジットされていたら彼の分け前はさらに増え、同じ時期に映画1本に出演するよりずっと稼げるかもしれない。

先に挙げたシーズン1全体の製作費5000万ドルからAに200万ドルを払ったとしても、巨額の資金が残る。収録用のセットを大作映画に匹敵する高いクオリティで作ることも可能だ。一度作ったセットはスタジオ・レンタル料がかかっても、スタジオに建てたままにすることで何度も使えるなら結局は得だ。さらに、そのドラマが何年も続いてセット、小道具、衣装などを使い回せば製作費はさらに浮く。浮いたお金でクオリティ向上のための投資もできる。

スタッフに支払われるべき報酬も、各パートのスタッフが所属する各組合がきちんと決めているから、彼らが映画1本のために6カ月間働くのも、ドラマ10話のために6カ月間働くのも（実際は全10話のドラマだと準備期間もあって6カ月以上の期間がかかる可能性は高いが）、ほぼ同額の報酬が彼らにはもたらされる。

製作費のうち多くの割合がプロデューサー陣の取り分になったとしても（最近では映画もそ

うだがドラマでたくさんのプロデューサーの名前がクレジットされる傾向が顕著だし、それでも高いクオリティを追求するドラマに、映画に匹敵する予算が追いついているのは確かだ。中規模の映画に参加するのもドラマに参加するのも、映画界で桁ちがいのギャラを受け取るほんの一部のビッグネーム以外、映像業界のプロにとっては経済的に大きくは変わらない、そういう時代にもう突入しているのである。

### エロ・グロ・不謹慎！ 何でもありのTVドラマ

同時に映画人たちにとって重要だったのは、作り手としての表現の自由、作家性を保証されたことだった。

1997年、全米TV界ではあるシステムが導入された。「TVペアレンタル・ガイドインズ」である。これは日本の「映倫」のような制度で、若い視聴者を刺激的な内容の番組から守ろうとする自主規制システムだ。

以前からアメリカでは、ドラマで描かれる暴力が論争の対象になることが多かった。

1970年代は刑事ドラマが多く、暴力描写に対する批判は常にあり、日本の『あぶない刑事』（86〜87）の原点を思わせる『刑事スタスキー&ハッチ』（75〜79）も暴力描写批判を受

け、シーズン3からソフトなムードに変わった。

アクション・ドラマのブームが起きた1980年代、TVの暴力描写に対する批判は再燃する。『特攻野郎Aチーム』(83~87)は社会悪にベトナム帰還兵たちが戦いを挑み、凄まじい数の弾丸が飛び交っても誰一人死なないという常軌を逸したドラマだったが、殴る・蹴る・銃を撃つといった暴力描写を正確にカウントしたら、とんでもない数だったという統計データが残されている。

最近もアメリカでは、ある殺人犯が「自分は『デクスター』(06~13)に影響を受けて犯行に及んだ」と語った事例がある。

一方で同じ1980年代にケーブルTVが躍進。地上波と異なり、CMの売り上げだけに経済的基盤を置かないチャンネルが増えたことを背景にしつつ、90年代の「TVペアルンタル・ガイドラインズ」の導入によってドラマが持つ可能性がぐっと広がった。要は「×指定」を受ける代わりに、家族揃って見るのが困難な、過激な表現が可能になったのだ。ケーブルTVの各チャンネルが特に積極的に、視聴料が高額なHBOなどの「プレミアム系チャンネル」は中でも顕著だ。従来のTV界の放送コードでは表現が困難だった、バイオレンス、エロス、言葉使いが汚い台詞せりふといった、過激な表現がドラマでも可能になった

のだ。プレミアム系チャンネルのドラマにはCMが入らないので、より視聴者が番組に没頭できるようになったのもポイントだ。

『SEX AND THE CITY』(98〜04)の大人のおもちゃを持って笑う女性たち、『デクスター』の連続殺人鬼<sup>シリアルキラ</sup>である血痕鑑識官、『ブレイキング・バッド』(08〜13)の麻薬を作る高校教師、『ウォーキング・デッド』(10〜)の人間対ゾンビのホラー描写など、地上波を除く全米TV界、そして動画配信サービスの世界では、一挙に「何でもあり」の状態に近づいたのだ。

### ハリウッド・スターもTV界へ

さて、全米地上波のドラマの場合、一年で22〜24話を作ることが多く(ずっと昔は30話以上作っていた時期も)、ドラマのレギュラー出演陣は一年で9カ月は拘束されていた。そうになると3カ月以上撮影するような映画に出演することは困難になり、逆にTVスターの映画界進出を困難にしていた。映画で成功するためには番組を降りる必要があり、それに挑んで散った(そしてTV界に戻ってきた)俳優は多い。

『24-TWENTY FOUR』(05〜14)のキーファー・サザーランドも、『チャーリー・シーンの

ハーパー★ボーイズ』(63〜64)のチャーリー・シーンも、恐らくは映画界で活躍できなくなると覚悟しつつ、ドラマの可能性を信じて出演を決意したのだろう。しかし、結果的に彼らの収入は、映画界にいた頃より激増した。特にシーンは、不祥事を連発して出演契約を打ち切られる直前、同番組で1話あたりなんと180万ドル、日本円にして約2億円弱を稼いでいた。『〜ハーパー★ボーイズ』のような30分枠用コメディは1話あたりの収録にかかる時間が、リハーサルから収録(一日)まで5日間。日給はなんと約4千万円弱だ。

先述した通り、3か月から半年程度の拘束で済み、収入にもつながると、ドラマに関心を持つスターは急増している。

近年最大級の絶賛を浴びた、HBOの『TRUE DETECTIVE／二人の刑事』(14)。映画『ダラス・バイヤーズクラブ』(13)でアカデミー主演男優賞を受賞したマシュー・マコノヒーが同映画に続き、やせたまま出演して鬼気迫る熱演を見せ、共演の映画スター、ウディ・ハレルソンも実力を発揮した。そのシーズン2である『TRUE DETECTIVE／ロサンゼルス』(15)にも、コリン・ファレル、レイチェル・マクアダムス、ヴィンス・ヴォーンなど、映画に匹敵する豪華キャストが集まった。

アカデミー賞受賞組でいうと、ハリー・ペリーがSFドラマ『エクスタント』(14〜15)で

さなだ ひろゆき

真田広之と共演し、2017年に全米スターズ局が放送予定の『ザ・ワン・パーセント(原題)』は、映画『バードマン あるいは(無知がもたらす予期せぬ奇跡)』(14)、『レヴェナント…蘇えりし者』(15)のアレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトウ監督らが企画・製作総指揮をしている。

2016年も、J・J・エイブラムスが製作総指揮するドラマ『11/22/63』(16)にジェームズ・フランコとクリス・クーパーが共演し、ドラマ『オメルタ』に映画『クリード チャンプを継ぐ男』(15)が好評だったシルヴェスター・スタローンが主演する予定だ。名優から気鋭の監督まで。ここには書き切れないほど、才能豊かな映画人たちがドラマ界に参入している。

なぜ映画人たちがこぞってドラマに手を出すのか？

もう一度、なぜ映画界の才能がドラマ界に流入するようになったのかを考えたい。

### TVドラマ製作に参入した映画監督

監督名	製作	作品名	特徴
マーティン・スコセッシ監督	HBO	『ボードウォーク・エンバイア 欲望の街』(10~14)	ステイヴ・ブシェミ主演
サム・ライミ監督	Starz	『死霊のはらわた リターンズ』(15~)	ブルース・キャンベル主演
リドリー・スコット監督	Amazon	『高い城の男』(15)	Amazonプライム・ビデオオリジナル作品
リリー&ラナ・ウォシャウスキー監督	Netflix	『センス8』16~)	Netflixオリジナル作品
イーライ・ロス監督	Netflix	『ヘムロック・グローヴ』(13~15)	Netflixオリジナル作品
ステイヴン・ソダーバーグ監督	Netflix	『ゴッドレス(原題)』(17)	Netflixオリジナル作品

先述した通り、世界の商業映画の中心はアメリカのハリウッドだが、そんなハリウッドにある大手映画会社の数々は現在、中国の市場を最も重視するようになった。

しかし、そんな中国で上映できる映画は限られている。政治的に問題がある作品はもちろんのこと、リアルなバイオレンスやセックスの要素がある大人向けの映画は上映できず、現実社会を連想させないファンタジー映画が高い興行成績を記録している。そんな現実が、多彩な作品を生み出すことをよしとしてきたハリウッドのあり方を変えつつある。

一方、中国という巨大なマーケットを相手にせずとも、作り手たちが、自分たちが真に描きたい、大人に向けたエンターテインメントを発表できる場が、現在のアメリカのTV界および動画配信サービスにはあった。

メジャーも、映画のビジネスが水もので総売り上げを予測できないならと安定した収益を確保できる、動画配信サービスなどの「サブスクリプション・ビジネス」(加入者が払う会費の総計で売り上げのほとんどを得る)に期待をかけている。

特に現在は、原作がないオリジナル作品を手掛けた作り手たちは、活動の場を移せるものなら映画界よりドラマ界に移したいと願っているはずだ。

今後もしばらくは、映画界の才能がドラマ界に流入する状況は変わることがないだろう。

## 「動画配信サービス」の時代が本格的に到来

日本では2015年秋、「動画配信サービス」が大いに注目を集めた。利用者は月額固定料金を支払えば、契約期間中はインターネットを通じて配信される動画を見放題で楽しめるサービスである。

それまでも、Hulu、dTV、U-NEXT（ここはアダルトビデオが見られるからかその分料金が高いのがネックだが）などがあつたのに、なぜあらためて動画配信サービスが注目されたのか。それは米国最大手のネットフリックスが日本でもサービスを開始したからだ。日本のメディアでは「黒船」にたとえられることも多い。

各動画配信サービスについて、日本における現状も併せて紹介してみよう。

2015年、ついに上陸した「黒船」

# ネットフリックス

1997年に創業したアメリカのネットフリックスは、元々動画配信サービスではなく、インターネットでレンタルDVDの注文を受け付けて郵便で届ける事業の会社だった。創業者の一人、リード・ヘイスティングスは、レンタルビデオで40ドルもの延滞金を取られたことから、返却が遅れても延滞金を取られないレンタルビデオ業を思いついたという。

しかし業績悪化後、ストリーミングで映画などの動画をインターネット経由で配信しようとする方針を変更する。これなら利用者とDVDをやり取りする物理的な手間も省ける。

またネットフリックスにはある強みがあった。顧客がサイトでレンタルDVDを申し込む際、積極的に「お薦め (recommendation)」の作品を提示したのがネットフリックスの成功の理由のひとつだった。具体的には、どんな顧客がどんな作品をレンタルしたかというデータを膨大に蓄積し、そのメガデータを「お薦め」に活用したのだった。

そしてネットフリックスはレンタルDVDが成功していた時代に蓄積した資金などを投入

# NETFLIX

し、2007年から動画配信サービスに力を入れていった。当初、利用者が見た時間に比例して料金は決まったが、翌年に見放題に移行。ハリウッドの各映画会社と次々に契約してタイトルを増やし続け、利用者数を伸ばしていった。

そして2011年、ついにオリジナル作品に着手すると発表。まず2年後の2013年2月14日のバレンタインデーから、『ハウス・オブ・カード 野望の階段』(13)のシーズン1全話を一挙配信した。2カ月後にはインディーズ映画の鬼才イーライ・ロス監督が製作するホラードラマ『ヘムロック・グロヴ』(13)を配信。注目すべきは、フィンチャー監督もロス監督もネットフリックスが持つメガデータから「この人たちなら自社のファンに支持される」と判断されたことである。同年にはオリジナルコメディドラマ『オレンジ・イズ・ニュー・ブラックス』(13)も配信した。

斬新だったのは、各シーズンを全話一挙に配信したこと。思い出してみてもほしい。見たい海外ドラマのDVDの次の巻をレンタル店に借りに行った時、別の利用者に貸し出されていて借りられなかった時の虚脱感を。レンタルビデオ業を知り尽くしたネットフリックスだからこそ、利用者たちをそんなストレスから解放してみせたのだった。

そして『ハウス・オブ・カード 野望の階段』は同年秋に開催されたTV界の権威、第65

回エミー賞で4つのノミネーションを受けた。ノミネーションはネット独占配信ドラマとして同賞史上初だ。そしてフィンチャーがドラマ・シリーズ監督賞に輝き、ネット独占配信ドラマがノミネーションにとどまらず受賞までしたのも史上初だった。『オレンジ・イズ・ニュー・ブラック』も翌年の第66回エミー賞で12個のノミネーションを獲得した。

但し、以上のような先行投資がかさんだため、累積赤字は日本円にして数千億円もあるという説がある。しかし、以上のような映像コンテンツは今後何年間も利益を生み続けるかもしれない資産として残り、何より事業自体に将来性があるのは大きい。

全米で快進撃を続けてきたネットフリックスだが、日本でも2015年9月1日にサービスを開始。日本進出にあたってネットフリックスは日本の市場を研究し、国産の作品が重要になると分析した。そしてフジテレビと組み、同局のヒット番組『テラスハウス』の続編などを配信し、サービス開始の数日前には第153回芥川賞に輝いた又吉直樹またよしなおき氏の小説『火花』を映像化して配信すると発表して注目された(2016年6月3日より配信中)。

海外ドラマも、本国でのネットフリックスで話題になった『ハウス・オブ・カード 野望の階段』の配信開始こそ遅れたが、他にも多彩なコンテンツを日本に上陸させている。

代表的なネットフリックスのオリジナル作品は、賞レースで好調な『オレンジ・イズ・

『ニュー・ブラック』の他、『マトリックス』(99)などの映画で知られるウオシャウスキー兄弟(現在はどちらも性転換して姉妹になってしまった)のSFドラマ『センス8』(15)、史上最悪の麻薬王パブロ・エスコバルを題材にした実話犯罪ドラマ『ナルコス』(15)、高い評価を得た『ダメージ』(07、12)のスタッフが手がけたサスペンス『ブラッドライン』(15)など。

またマーベル・コミックスの作品を映像化する「マーベル・シネマティック・ユニバース」に含まれる『デアデビル』(15)、『ジェシカ・ジョーンズ』(15)などの話題作も配信。ちなみに、新作『ルーク・ケイジ』(16)や、『デアデビル』のシーズン2に登場したマーベル・キアラを主人公にした『ザ・パニッシャー(原題)』のドラマ版も配信予定だ。

オリジナル作品以外にも、日本でのラインナップには本国でTV放送された作品である、『ブレイキング・バッド』(08、13)のスピノフで、後に弁護士ソウル・グッドマンになるジミー・マツギル(ボブ・オデンカーク)の過去を描いた、全米AMC局の『ベター・コール・ソウル』(15)、全米ABCネットワークで放送された、やはり「マーベル・シネマティック・ユニバース」の中の『エージェント・カーター』(15、16)、全米MTV局で放送されたヒットホラー映画のドラマ版『スクリーム』(15)などを配信。

また、本国版ネットフリックスはTVで終了したドラマの続編を製作して配信することが

多いが、1980～90年代のヒットコメディ『フルハウス』(87～95)の続編、『フラーハウス』(16)に度肝を抜かれた人は多いのでは。日本語吹替版に旧作のキャストが再集結したのも話題だ。2017年には名作宇宙SFドラマの最新シリーズ『スタートレック・ディスカバリー(原題)』も配信するという。

また、ネットフリックスはドキュメンタリーも充実している。第88回アカデミー賞の長編ドキュメンタリー賞にノミネートされた5本のうち、『ニーナ・シモン〜魂の歌』(15)と『ウインター・オン・ファイヤー…ウクライナ、自由への闘い』(15)の2本の製作にネットフリックスは参加し、毎回1時間前後で複数のエピソードがあるドキュメンタリー・シリーズ(ドキュ・シリーズと呼ぶ)、一人の男性が2度も冤罪で逮捕されたかもしれないという実話を追った全10回の『殺人者への道』(15、シーズン2も決定)などの衝撃作を配信した。

そういう訳で目が離せない日本版ネットフリックス。2016年夏の時点であえて指摘するなら、映画のラインナップの充実がより求められることだろう。

ネット通販サイトがドラマを配信する事情

# Amazon プライム・ビデオ

インターネット通販の世界最大手、アマゾン (Amazon) が展開している会員サービス「Amazon プライム」。注文した商品が早く届くというサービスを筆頭に各種のサービスを提供しているが、その中に動画配信サービス「Amazon プライム・ビデオ」もある。

筆者自身、なぜインターネット通販のアマゾンがドラマを配信するのか、最初はよく分からなかったが、恐らくはこれまでのサービス以外に、最新の映像エンターテインメントなども提供することで会員にメリットを提供し、企業としての価値を高めようとしているのだろう。2016年7月の時点で日本では「Amazon プライム」の年会費は消費税込みで3900円。他の動画配信サービスよりも格段に安いが、推測するにアマゾンとしての宣伝費からもオリジナル・ドラマや映画などのコンテンツの確保にコストを投じているのだろう。実際に海外ドラマの新作がそれなりに充実しているので無視できない存在だ。

アメリカ本国における「Amazon ビデオ」の成立についてふれたい。アメリカのアマゾン

amazon Prime

が自社のサイトで動画を配信し始めたのは2006年版。ケーブルTVやホテルの宿泊客向けのサービスで普及していたVOD（ビデオ・オン・デマンド）のインターネット版だった。ちなみに日本でも、「Amazonプライム」の会員にならずとも、料金さえ払えば映画などの配信を楽しむことができ、ここで日本初上陸する海外の映画まで存在している。

そして関連企業として「Amazonスタジオ（ステューディオズ）」を創設し、映像作品の製作にも進出。2014年2月に全米配信を開始した初めてのオリジナル・ドラマは、初老の大学教授（ジェフリー・タンバー）が自身の中に眠っていた女性のジェンダーに目覚めるコミカルドラマ『トランスペアレント』。これは翌年1月に発表された第72回ゴールデン・グローブ賞TVの部で、ネット独占配信ドラマとして史上初めてミュージカル／コメディ・シリーズ作品賞に輝いた。俳優のジェイソン・シュワルツマンとその従兄であるロマン・コッポラ監督などインディーズ映画を中心に活躍するメンバーがプロデュースし、ラテン系実力派スターのガエル・ガルシア・ベルナルを主演に迎えたコメディ『モーツァルト・イン・ザ・ジャングル』<sup>(14)</sup>も、2016年の第73回ゴールデン・グローブ賞で同部門を受賞。

ユニークなのは、アマゾンのドラマはまず第1話だけをテスト配信し、そこでの反響を受けてシーズン1を製作すること。2015年は、映画『ブレードランナー』<sup>(82)</sup>などの原作

者フィリップ・K・ディックが、第二次世界大戦でアメリカなどの連合国が負けた架空世界を描いた小説『高い城の男(原題)』(15)の同名ドラマ化が大反響を呼んだ。

日本のAmazonプライム・ビデオでは、「Amazonスタジオ」の作品以外にも、全米ではUSAネットワークが放送して第73回ゴールデン・グローブ賞TVの部のドラマ・シリーズ作品賞に輝いた衝撃的野心作『MR. ROBOT / ミスター・ロボット』(15)、ヒット作『ウォーキング・デッド』のスピンオフで全米AMC局で放送された新たなゾンビ・パニック・ドラマ『ファイアー・ザ・ウォーキング・デッド』(15)などを配信した。

日本独自の進化を続ける要注目ブランド

Hulu

2007年、アメリカで大手メディア企業の複数が出資して設立した動画配信サービス。アメリカでは広告が入るため無料で見られるが、有料会員向けの「Huluプラス」もある。各メディア企業（CBS以外の地上波ネットワークなど）の人気作品が見られるためか、オリジナル・コンテンツの開発については出遅れた感があるが、2016年2月15日からJ・J・エイブラムス製作総指揮でステイヴン・キングの小説をドラマ化した『11/22/63』（16）の配信を開始。過去に飛んだ主人公（ジェームズ・フランコ）がジョン・F・ケネディ暗殺を防ごうとするSFサスペンスだ。

2011年から日本でもサービスを開始したが、日本では動画配信サービスそのものの定着が遅れたため加入数が伸びず、2014年、日本テレビの子会社になった。

日本テレビやそのネットワークの系列局のヒット番組を追っかけ視聴できるといふ新しい付加価値が好評な上、ドイツのドラマを唐沢寿明（からさわしむけい）の主演でリメイクした『THE LAST

hulu

COP／ラストコップ』(15)、日本テレビと共同製作)、尾野真千子をヒロインに迎えたサスペンス『ジコ』(15)といった和製オリジナル・ドラマを発表している。

海外ドラマも積極的に調達していて、ステイヴン・キング原作のSFサスペンス『アンダー・ザ・ドーム』(13~15)、ヒットSF映画をドラマ化した『12モンキーズ』(15)、オーストラリアのヒットドラマ『ウェントワース女子刑務所』(13)など、海外ドラマ好きが無視できない充実ぶり。2016年中には、映画界の鬼才ステイヴン・ソダーバーグが全話を監督した衝撃作『The Knick』(14~15)も配信予定だ。

さらに、2016年には全米TV界のプレミアム・チャンネルの雄、HBOと契約し、同チャンネルのヒットドラマ、『ゲーム・オブ・スローンズ』(11~)などの配信を開始。

2016年夏の時点で契約数は日本版ネットフリックスを上回っていると思われる、しばらくは日本を代表する動画配信サービスの一社として注目を集め続けるだろう。

2016年夏時点で日本最多の契約数を誇る

# dTV

アメリカではなく日本で生まれた動画配信サービスだが、ここで紹介しておきたい。

イベントクス通信放送が運営し、NTTドコモが提供するサービスだが、2016年夏の時点で毎月の料金が消費税込みで540円と他の競合各社より安く、他社よりアニメなどの国産コンテンツが充実していることもあり、2016年3月27日に会員（サブスクライバー）は500万人を突破し、有料の動画配信サービスとしては国内トップにいる。

海外ドラマについては、従来から人気が高かったヒット海外ドラマがかなり揃っている点は、海外ドラマ・ピギナーにとって頼もしいといえる。

欲をいえば、dTVでしか見られない海外ドラマがもっと増えれば、メディアでの露出がもっと増えてもおかしくないし、そうなることを個人的には望みたい。

まずは何が起きてもおかしくないのが現在の動画配信サービス事情であり、海外ドラマの目利きを自負する人なら、もうマークし始めておいたほうがいいだろう。

## 日本における4大「動画配信サービス」比較

名称	NETFLIX	hulu	amazonPrime	dTV
親会社	ネットフリックス	日本テレビ	Amazon	NTTドコモ
日本でサービス開始	2015年9月1日	2011年8月31日	2015年9月24日	2015年4月22日に現名称に。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アメリカのNetflixで配信された最新のドラマ、映画、ドキュメンタリーを多数日本初公開。フジテレビと提携。</li> <li>●アメリカで作られたオリジナル・ドラマは本国で高評価を獲得。</li> <li>●ドラマ『火花』など、日本で作られたオリジナル・コンテンツも。</li> <li>●利用者の好みを分析して別作品をお薦めする機能に力を入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本テレビなどの国内のTV番組の配信や、最新海外ドラマに力を入れている。</li> <li>●アメリカのプレミアム系チャンネルHBOと提携。</li> <li>●『フジコ』などオリジナル・ドラマも製作している。</li> <li>●国内のTV番組は日本テレビだけではなくテレビ東京の番組も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ひと月あたりの会費が税込325円と安い上、Amazonプライムの他のサービスも受けられる。</li> <li>●アメリカで作られたオリジナル・ドラマは本国で高評価を獲得。</li> <li>●ウディ・アレン監督と組むなど、さらに映画界に接近していく模様。</li> <li>●対応端末を使ってダウンロードして再生することが可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サービスそのものは2009年に始まり、旧名称は「dビデオ powered by BeeTV」。2016年6月の時点で日本最多の会員数。</li> <li>●日本のアニメと音楽のコンテンツに力を入れている。</li> <li>●海外ドラマに関しては既に人気が高い作品を手堅くラインナップ。</li> <li>●国内のオリジナル・ドラマが充実。一部端末へのダウンロード可能。</li> </ul>
代表的な海外ドラマ ※一部の作品は他の動画配信サービスも配信。	『ハウス・オブ・カード 野望の階段』『オレンジ・イズ・ニュー・ブラック』『フラーハウス』『Sense センス8』『ヘムロック・グロヴ』『デアデビル』『ジェシカ・ジョーンズ』『ナルコス』『ブラッドライン』『ペター・コール・ソウル』『ジ・アメリカンズ』『スクリーム』『FARGO ファーゴ』	『ゲーム・オブ・スローンズ』『TRUE DETECTIVE』『死霊のはらわた リターンズ』『12モンキーズ』『タイラント・独裁国家』『HEROES Reborn』『ヒーローズ・リボーン』『Black Sails/ブラック・セイルズ』『ブルックリン警察-内部告発-』『アンダー・ザ・ドーム』	『トランスペアレント』『MR.ROBOT/ミスター・ロボット』『モーツァルト・イン・ザ・ジャングル』『フィアー・ザ・ウォーキング・デッド』『ティーン・ウルフ』『ラスト・タイクーン』『ブリーチャー』『BOSCH ボッシュ』『ハンド・オブ・ゴッド』『ヴァイキング〜海の覇者たち〜』	『ダ・ヴィンチと禁断の謎』『アウトキャスト』『ロスト・ガール』『生存者たち』『ウォーキング・デッド』『DEFIANCE/ディファイアンス』『コールドケース』『MAJOR CRIMES〜重大犯罪課』『24-TWENTY FOUR』『glee/グリー』『ゴシップガール』
再生の快適度 (筆者の主観による)	★★★★	★★	★★★★	★★★
税別料金	ひと月あたりベーシックプラン650円 スタンダードプラン950円 プレミアムプラン1450円	ひと月あたり933円	年間3611円	ひと月あたり500円

※ 2016年8月時点

## 海外ドラマの偏見を解く

アメリカのドラマが「動画配信サービス」やその基礎になった「ケーブルTV」（後述する）を中心に、空前絶後の興隆を見せていることをぜひ理解してほしい。それでもまだ「海外ドラマはハードルが高い」と思っている人は、大勢いるかもしれない。

まず「話数の多さ」だが、たとえば友人に勧められたコミックが面白くて、まとめて何巻も読んだことがある人は少なくないだろう。海外ドラマと日本のコミックやアニメが似ている点は、「人気があるかぎりは何年だって続く可能性はある」ことだ。むしろ、お気に入りの海外ドラマさえ見つければ、何十時間、何百時間も楽しめると考えてみるのはどうだろうか。それに、DVDやブルーレイ、そして動画配信サービスを使って視聴する場合、ここではやり方を詳述しないが、予想以上に短い時間で見ることで可能だ。スマホを使って、通勤時間や空き時間に見るのもいい。1話60分のドラマを分割して見るのもいいし、30分で1話が完結する良質なドラマだってある。マンガをばらばらと「斜め読み」しするように、海外ドラマだって斜め見したっていいのだ。

「シーズンの終わりで物語が完結しない」ことが多いのは確かにそうだが、お気に入りの映画シリーズやコミックから急に心が離れてなんとなく見なくなることは、誰にだってあ

る。一本の映画ならラストまで見るべきだが、海外ドラマは第2話以降、つまらなくなつたと思つたら見るのをそこでやめてもいいし、実はまた面白くなつたと耳にしたら、また見るようにすればいいだけのことだ。

そして「知らない俳優ばかり出演している」といつて海外ドラマを敬遠するのも残念だ。作り手たちがあえて「知らない俳優」をキャストイングすることで、見る者をストーリーに没入させることを狙う場合は多い。それよりも、ドラマで当たり役を得た俳優が映画の世界でも成功してスターになるかもしれない、そのプロセスをリアルタイムで追う醍醐味のほうが大きいこともある。

「海外ドラマはどれから見ればいいのか分からない」というのも考え過ぎ。評判を聞いたドラマの第1話を片っ端から見ればいい。昔なら、レンタルビデオ店で借りるだけでお金もかかって大変だが、動画配信サービスなら好きなだけ第1話は見放題だ。さらに、膨大なメガデータからあなたにおすすめの第1話を自動的にお勧めしてくれるだろう。

海外ドラマをカジュアルに楽しむ環境は整っている。あとは貴方が重い腰をあげる、それだけだ。

## アメリカ人の現在のドラマの楽しみ方

本来はTVで楽しまれるべきドラマという娯楽を生み、ケーブルTVを通じて多チャンネル化を進展させたアメリカだが、これまでに語ってきた通り、インターネットを使った「動画配信サービス」を生み出してみせた。

そんなアメリカで、「動画配信サービスがTVを駆逐している」と思っている人は多いかもしれない。

事実、現在は「コードカッター」と呼ばれる新たな現象が起きている。これは、インターネットで無料動画や、有料の動画配信サービスで自分が見たい番組だけ見られればいいと割り切り、ケーブルTVの契約をやめてしまう層のこと。確かに日本でも、CS放送やCATVに加入していても全然見ないチャンネルが結構あり、無駄に感じるのとは分らないでもない。

「コードカッター」は全米合わせてもまだ数百万世帯しかないと言われていたが、HBOなど、ケーブルのプレミアム系チャンネルも最近では自局のサイトや動画配信サービスで、1エピソードあたり数ドルという料金で配信を始めているといい、まるで「コードカッター」のニーズを受けたかのようなようだ。

ではアメリカのTV局はダメになったかというところ、その答はノーだ。各局が放送する番組については、局の系列会社が番組に投資するケースが増えており（以前は少なかった）、TV局で製作したドラマが動画配信サービスや海外のマーケットに売れて、系列会社から収益がフィードバックされている間はやはり安泰だ。配信しているケーブルTVのプラットフォームからも、一軒いくらずつという収入がある。

ケーブルTVはアメリカにおいて、電気・水道・ガスほどの重要度はないとはいっても社会資本のひとつというべきレベルのインフラになっている。また、放送権ビジネスの観点からいっても、たとえばオリンピックの放送権はとんでもない金額にまで膨張しているが、動画配信サービス向きのコンテンツと呼びがたい性質もあって、まだしばらくはTVで見られていくだろう。

そしてドラマに関しては、面白いドラマをきちんと作って放送してさえいれば損することとはなく、むしろ成功すれば次のヒット作につながるという好況を呈している。

そしてこれまで述べてきた通り、映画界から優れた才能が次々と流入し続けている間は、アメリカのドラマはこれまでに以上に進化を続けるにちがいない。



第2章

今見るべき価値が最も高いドラマとは

## 海外ドラマには、常に最高傑作がある

今世界の映像業界においては、無数の才能や潤沢な資金がドラマ業界に集まっている。海外ドラマ歴37年の筆者でさえ、21世紀に入ってからは毎年何回も「こんなドラマが生まれたか」と大いに驚かされているほどだ。仮にドラマの魅力を「秀作ドラマの本数×作品の面白さ」で数値化できるとするならば、恐らくは去年より今年、今年より来年のほうが数値が高い……という夢のような拡大再生産が起こっている。常に最高傑作があると言ってもいいような状況が、もう何年も続いているのだ。

ではどうやって見るべき価値があるドラマを見つけなければならないのか。

まずはあなたの好みにあった作品を見つけてみましょう。

筆者なりに考えた「海外ドラマ・マッチング表」を次のページに掲載してみた。無数にある海外ドラマの中から、今筆者が一番面白いと思う海外ドラマを7本、「海外ドラマ七福神」(筆者命名)を厳選しました。

まずはフラットな気持ちで挑戦して、あなたにとって最適な作品をマッチメイキングしてほしい。

診断結果をもとに、つづく作品紹介を読んでみてください。作品紹介を読んで、面白そうだと思ったら、まずはその海外ドラマの第1話を見てみよう。万が一、面白くなかったと思ったらもう一度、このマッチング表に再挑戦して、別の「海外ドラマ七福神」の第1話を見てみてほしい。

「海外ドラマ七福神」の導きによって、お気に入りの海外ドラマを見つけ、刺激的で豊かなドラマ人生を掴むきっかけとなることを祈っています。

まずはトライしてみるべし！

あなた好みの  
「今」みるべき  
海外ドラマが  
わかる！

**LET'S TRY!**



# が見るべき マッシュアップ表

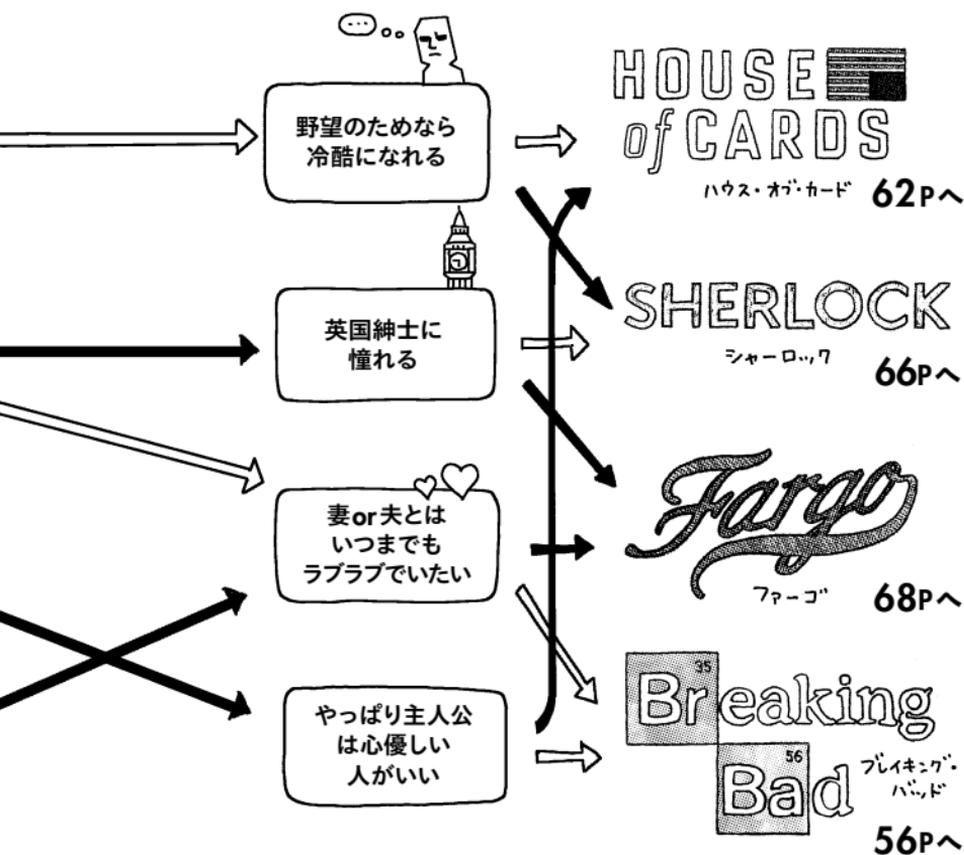


illustration  
by うらケン

# あなた 海外ドラマ

YES →  
No →

START

知的な  
サスペンスが  
好きだ



一度ハマると  
止まらなくなる  
タイプだ

アクションより  
会話劇を  
楽しみたい

群像劇が  
好き

悪役の方に  
惹かれてしまう

都会よりも  
田舎が好き

国際ニュース  
をよく  
チェックする

グロ・ゴア  
描写も  
へっちゃら

犠牲があっ  
てもテロとは  
戦うべき

戦うなら  
超強い怪物と  
戦ってみたい

ゾンビ大好き

働く女性を  
応援したい

GAME OF  
THRONES

ゲーム・オブ・スローンズ

60Pへ

THE  
WALKING DEAD

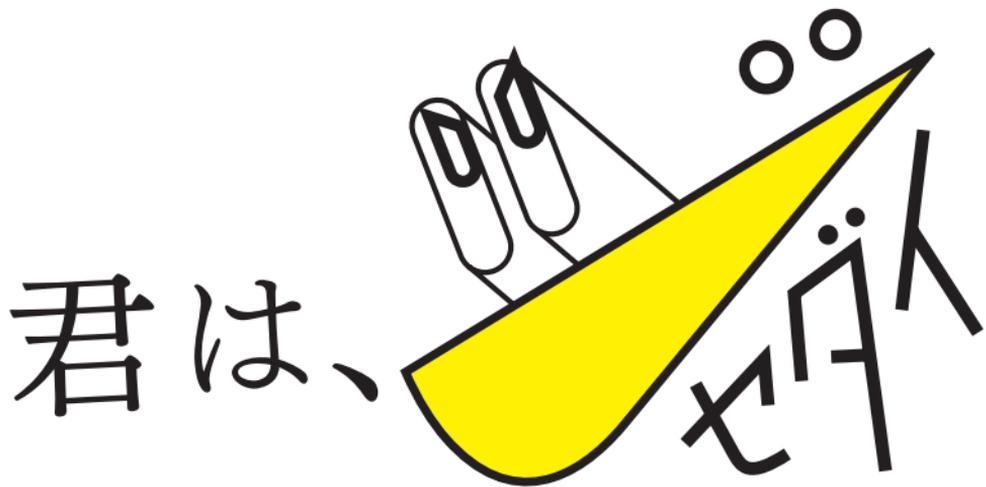
ウォーキング・デッド

58Pへ

HOMELAND

ホームランド

64Pへ



君は、

ゼダイ人

何と闘うか？

<http://ji-sedai.jp/>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

**ジセダイイベント**

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

**ジセダイ総研**

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

**星海社新書試し読み**

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

**行動せよ!!!**